

令和7年度 第3回平塚市障がい者自立支援協議会会議録

日 時 令和8年2月4日（水）10時00分～12時00分

場 所 平塚市庁舎本館619会議室

【委員】遠藤会長、飯塚委員、遠藤委員、大久保委員、佐々木委員、山崎委員、鈴木委員、春木委員、古川委員、前田委員、宮崎委員、村田委員、佐藤委員、山崎委員、横山委員、與野委員
（欠席者 赤部委員）

【オブザーバー】湘南西部障害保健福祉圏域地域生活支援ナビゲーションセンター：岡西氏

【事務局】障がい福祉課（基幹相談支援センター）：小嶋課長代理、小泉課長代理、古田主管、五十嵐主査、信國主査、萩原主査、西谷主査
／こども家庭課（こども発達支援担当）：山崎主管（担当長）、小瀬主査

【傍聴者】1人

開 会

議 事

1 日中サービス支援型共同生活援助 事業実施状況の報告について

- ・ グループホームユミトの事業実施状況が報告され、会長より資料1に基づき質問やアドバイスが求められた。
- ・ 退去者が少ない点について、ユミト側から体調悪化による退去事例や、訪問看護事業所の体制不足によりやむを得ず退去に至った経緯が説明された。
- ・ 運営における「人の潤沢さ」の問題が提示され、報酬計算の多様性への対応や行政・制度への要望、相談員による家族への説明協力の可能性が議論された。
- ・ 報酬に関する課題として、利用者の帰宅希望の多様化により、報酬が減少する実態が共有された。
- ・ 委員から、グループホームユミトの人員配置に関する疑問が呈された。日中サービス支援型であるにも関わらず、外部サービス利用者が多い中で日中の生活支援員が10人配置されている点について、人員過剰ではないかとの指摘があった。
- ・ ユミト側は、重症心身障害の方の施設であるため介護的要素が多く、最低限の人数で運営しており、職員の定着率の悪さや求人の難しさがある現状を説明した。
- ・ 委員から、日中支援型グループホームの最大の利点は24時間支援であるため、外部委託型ではなく自前で日中サービスを提供すべきではないか、と提言した。ユミト側は小規模 NPO 法人としての難しさを述べた。
- ・ 会長は、ユミトの利用者本位の姿勢を評価しつつ、報酬との兼ね合いの難しさに理解を示し、今後の協力体制について言及した。

2 各部会・分科会の活動報告及び来年度の活動予定（案）について

（1） 計画相談支援分科会

- ・ 令和7年度はアセスメント研修とGSV研修（グループスーパービジョン）を計4回実施。
- ・ 来年度は全体研修（市全体の相談支援体制）とGSV研修2回を予定。

（2） 身障分科会

- ・ 年3回の分科会と月1回の事務局打合せを実施。
- ・ 地域課題として障がい者の外出機会減少改善に取り組み、居宅介護事業所への聞き取り調査と

啓発活動（保健センターでの講演会・誘導體験）を実施。

- ・ 来年度も引き続き平塚市に合った移動支援の取り組みと啓発活動のあり方を検討する。

（３）知的分科会

- ・ 事務局会議５回、全体会２回を実施。
- ・ 意思決定支援をテーマに研修を行い、「自身の支援の振り返りになった」と好評。実践報告の場も好評で、来年度も場を設けたい。意思決定支援の取組を全体で底上げしていく中で、重度ケース、児童ケース、ひきこもりケースなど多様な事例報告の場を設け、現場職員の意見も踏まえながら取り組む。

（４）グループホーム連絡会

- ・ 事務局会議４回、全体会３回を実施。
- ・ グループワークを通じて横のつながりを強化し、課題共有や安心感につながった。
- ・ 地域連携推進会議の実践報告会を実施。
- ・ 来年度は地域課題、地域連携推進会議、グループホーム職員のニーズに合わせた研修を実施していきたい。横のつながり強化と職員スキルアップを目指す。地域推進連携会議は１年目の振り返りから、地域の中での関係づくりへどう発展させていくかを考えていく場にしていきたい。

（５）精神分科会

- ・ 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進」の理念に基づき、ネットワーク作りを進める。
- ・ 定例会年３回、課題検討ワーキング４回を実施し、８０５０問題に取り組んだ。
- ・ 「精神保健福祉支援者のための連携ガイド～平塚こころのNavi～」を作成し、普及啓発活動と連携強化のために高齢者支援機関への研修会を開催した。
- ・ にも包括構築推進のための普及啓発のため、埼玉県南飯能市にある南飯能病院の理事長を招いた講演会とグループワークを予定。

（６）就労支援部会

- ・ 障がい者の一般企業への就労促進と企業の雇用促進を目的として活動。
- ・ 就労選択支援について研修や部会、ワーキングを実施。
- ・ ワーキングは、平塚市内で就労選択支援事業所が不足している現状を共有し、行政と連携して課題解決に取り組む。
- ・ 令和７年１０月１０日に「伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会」と当部会の共催で、企業と当事者・就労支援機関向け雇用促進セミナーを実施。障がい者雇用の進んでいる企業２社から事例報告をしてもらい、これから取り組む企業や当事者にとって非常に参考になったと好評であったため、今後も継続したい。

（７）こども部会

- ・ 未就学児分科会：年２回実施し、事業所のＩＣＴ活用状況や支給決定の見直しについて意見交換。学齢児分科会との合同研修も実施。
- ・ 学齢児分科会：虐待防止研修とＧＳＶ研修を実施。次年度も代表者を定期的に開催し、地域課題の抽出、研修や情報交換を通じた事業所の資質向上を目指した取組をしていきたい
- ・ 医療的ケア児分科会：コーディネーター連絡会を年６回、分科会を４回、うち２回は対面座談会を実施し保護者間のつながりが深まった。作業部会も開催し、学童や保育所、学校での医療的ケア児の受け入れ状況や課題が共有できた。連絡会では保健福祉事務所との協力により、生後間もない児の保護者とコーディネーターがつながることができた。次年度もコーディネータ

ーにつながる仕組みについて関係機関に周知し、支援につなげていく。

- ・ 移送サービス分科会：利用希望相談はあったが会の開催には至らなかった。ボランティア確保が課題。次年度は支援学校などに利用希望者を確認していく。ボランティアセンターと連携して今後の運用を検討していく。

(8) 質疑応答・意見

- ・ 就労支援部会に対し、しんわルネッサンスの就労選択支援事業が利用されていない現状について質問があった。指定は受けたものの、アセスメントシートの未整備で困っていること、依頼もないため、現在、1件の利用もないことが共有された。
- ・ 学齢児分科会の虐待防止研修について、委員から保護者向けの学ぶ機会の重要性が提起された。今後の研修で意見が反映できたら良いと考える旨、示された。
- ・ 会長から、各委員に部会・分科会及びそれらが実施する研修会などへの積極的な参加を促し、詳細の検討に参画するよう呼びかけた。また、事務局へはメールを活用して委員へ開催案内をするよう依頼した。
- ・ グループホーム連絡会について、委員より、グループホームの多様化に対応した連絡会運営の必要性、特に地域連携推進会議の義務化に伴い、模範的な進め方を提案する役割が求められるとの意見が出、その通りであるため発展させた連絡会運営を考えたいと回答があった。会長から、この連絡会は知的分科会が中心となっているが、知的障がい以外の障がいの方も入居しているので、グループホーム連絡会こそ委員みんなで協力していくものであると提起された。
- ・ 岡西オブザーバーより、県を挙げて望まないセルフプランの低減を進めていくところで、相談支援体制の現状についての見直ししながら、盤石な体制にしていく方向性について、これから開催される県の協議会や圏域の協議会で共有していく予定であること、また、次年度以降、圏域、全県において、相談支援体制を盤石にする取組として、複数事業所の協働型モデルについて、話し合いが継続していくとの説明があった。平塚市については、計画相談支援事業所に対する質の向上に向けたGSV研修や初任者研修を終えた相談員、一人事業所への支援の積極的な取組について、そのように一步一步進めることが極めて重要であると評価。精神分科会の8050問題への取組が他エリアのモデルになるような取組であると評価。グループホーム連絡会については、平塚市は早い段階から協議会のフレームを使って取り組んでいる。圏域のグループホーム連絡会を運営しているが、先に委員から助言のあったように事業形態や職種に焦点を当て、開催方法を考えながら各市町と連携していきたいとあった。意思決定支援について、支援員へのアプローチの重要性が述べられ、圏域事業において支援員等現場に届く連絡会、研修会をしていきたいとあった。

3 地域課題・行政説明等

(1) 「精神保健福祉支援者のための連携ガイド」の活用について

- ・ 村田委員より「平塚こころのNAVI」が紹介され、精神保健福祉に関する相談窓口の整理、精神疾患の代表例の特徴などが掲載されていることが説明された。
- ・ 同ガイドは「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進」の一環として作成され、予防や早期支援、多職種・多機関連携の強化を目的としている。
- ・ 今年度は8050問題やひきこもり支援に焦点を当て、関連機関への普及啓発活動を実施。
- ・ 各委員に対し、同ガイドについて、より良いものにしていくための意見、普及啓発に妥当な場所・機関について意見を求めた。

(2) 委員意見

- ・ 委員から産後うつの方に対してガイドがないと言及、冊子化や事例・Q&Aの充実、児童相談所での活用可能性として18歳以降の相談先を探すときに役立つとあり、対象者の範囲（専門職向けか一般向けか）について意見や質問が出された。
- ・ 村田委員から、産後うつへの視点の欠如を認め、今後の改訂版での検討を示唆。冊子化には予算が必要であること、現状は専門職向けであることを説明した。事務局から、専門職向けで作成（1年目のケアマネジャーが障がい分野のサービスがイメージできることを想定）しているが、市ホームページにも掲載しており、誰でも利用して構わない旨の補足があった。

4 その他

研修会のお知らせ（1）～（3）

- ・ 精神分科会主催の「地域共生社会の実現に向けた精神科医療と福祉の役割について考える」研修会（締切：2月5日、席に余裕あり）
- ・ 身障分科会主催の「見て、聴いて、触れて、理解を深める」研修会（3月9日保健センター開催、前田委員講演、誘導体験あり）
- ・ 平塚市障がい者基幹相談支援センター、委託相談支援事業所、平塚市障がい者自立支援協議会合同開催研修会（3月12日、岡西氏による意思決定支援に関する講演、一般向け）

委員からお知らせ

「防災あんしんブック」について

- ・ 鈴木委員より、神奈川県手をつなぐ育成会が作成した「防災あんしんブック（自分のこと編）」の紹介があった。
- ・ 知的・発達障がい児者が自助力を高めることを目的とし、イラストを多用し、簡易に記入できる工夫がされている。知的障がい児者に使いやすいコミュニケーションボードも掲載。
- ・ 携帯用の「いつでもあんしんカード」も紹介された。
- ・ 2月末から神奈川県手をつなぐ育成会のホームページでダウンロード可能。https://ikusei-kanagawa.jp/?page_id=3041

閉 会